

歴史学者からも一言言わせて

元明治学院大学学長 森井眞

安倍晋三首相は「侵略という定義は学界的にも国際的にも定まっていない」と発言したという。確かに、たとえば歴史学界では、「侵略」についていろいろな考え、定義があるだろう。

ただし、圧倒的多数の研究者は、可能な限り多くの史料に接し、それを批判的に検討し、できるだけ正確に歴史を解釈し事実を理解し知ろうとする。それに対し、少数ではあるが、歴史に対して予断を持ち、都合の悪い史料は無視し、都合のいい史料だけを拾って歴史を作り上げようとする人がいる。両者は、学界的には等価値では断じてない。しかし首相はこれを同等と考えているようにみえる。

さらにいえば、歴史を学びながら他者の痛みが自分の痛みになるように、人間として普通の想像力が働かない人は、結局歴史から何も学べないのではないか。日本の犯した過ちを認めないのは卑怯だと思う。そんな人たちの作る日本は「美しい」のだろうか。

(『朝日新聞』2014年5月20日)